

保育者の絵本選択の理由と経験年数との関連に関する研究

佐藤 智恵¹・松井 剛太¹・上村 眞生²・祝 小力²・趙 京玉²

The Study of relation between reason for picture book selection and years of experience by nursery school teacher

Chie Sato¹, Gota Matsui¹, Masao Uemura², Zhu Xiao Li², Zhao Jing Yu²

This study is examined about the nursery school teachers' and the university students' recognition when they select picture books for children. Investigation objects are 30 university students in Hiroshima who do not relate with child care and 30 nursery teachers in Hiroshima. As the procedure of the investigation ;the investigator presents 5 picture books, the object person selects the picture book which is consciously read to apply the imagination of the 5 years child, and the investigator questions the object person why they selected the picture book.

As the result of the investigation, the nursery teachers and the university students selected the same picture book and there was no big difference. However, a remarkable difference was seen by whether they have experience of child care or not, and at years of experience. The nursery teachers who have taken care of children for 1-5 years enumerated the reason such as "It is not realistic", and is similar to the university student who did not have the child care experience. However, the longer the nursery have taken care of children, the more the nursery teachers think about children's growth and select a suitable picture book for the child's growth. The nursery teachers, who have take care of children for 6-11 years, suggest that they think about children's growth and select a suitable picture book for the child's growth, describing "the child can think, and I also think together". The nursery teachers, who have take care of children for 12-15 years, suggest that they think about the content of the picture book closely and select a suitable one, describing "There is a scene that can be thought and imagined in the picture book". The nursery teachers, who have taken care of children for 16-35 years, suggest that they select a suitable one for their aim of the child care, describing "what I want the children to become".

Key Words : child care, picture book, experiencing years of child care

1. 目的

絵本は保育所に常備されている教材の一つであり、日常的に保育活動に使用される。絵本の読み聞かせは、子どもの発達にさまざまな効果をもたらす。これまでの研究では、1歳から3

歳頃の読み聞かせ頻度が幼児期の子どもの語彙能力の獲得 (Robbins&Ehri, 1994 ; Snow&Goldfield, 1983), 言語能力の発達 (Moerk, 1985), 読み書き知識の習得と関連していることが明らかになっている。また、絵本の持つ独自の世界に触れることで、子どもの想像世界が培われることは周知のところである (秋田, 2004)。さらに、2003年のPISA調査で読解力が1位であったフィンランドで幼児期からの絵本の読み聞かせが

1 広島大学
2 広島大学大学院

奨励されていることから、昨今、絵本が子どもの読解力に与える効果も期待されている。

絵本の読み聞かせの効果を期待するには、読み手である大人が意図を持って絵本を読むことが重要とされる(森谷, 2002)。保育者が絵本の読み聞かせを行う際に動機や目的が表れるのは、絵本の選択、絵本の読み方の2つが考えられる。本稿では、前者の絵本の選択に焦点をあてて検討する。柏木(1963)は、子どもは発達段階により絵本の絵や文の捉え方、見方に違いがあることを調査し、大人の絵本選択の重要性を指摘している。しかし、実際には保育者が絵本の読み聞かせに明確な意図を持っていることは少ないことが明らかにされている。和田(1995)は、絵本の読み聞かせにおいて、「保育者の選択の意図が明確であった絵本」は、42.3%であり、半数以上の保育者は無意図的に絵本の読み聞かせを行っていることを示している。また、意図が明確であったものについても、季節や天候に関連するもの(54.5%)、水遊びや描画と関連するもの(27.3%)、睡眠やきょうだいなど生活と関連するもの(18.2%)とあるように、子どもの発達を考慮するような選択はなされていない。

保育所保育指針では、絵本は「言葉」の領域で触れられており、「絵本や童話、視聴覚教材などを見たり、聞いたりして様々なイメージを広げるとともに、想像することの楽しさを味わう(6歳児)」というように、イメージや想像することと関連して述べられている。つまり、保育者は絵本の使用に子どもの想像力を意識していることが考えられる。だが、これまで保育者の読み聞かせの動機や目的に着目した研究はほとんど見られず、保育者が子どもに何を期待して絵本を選択しているのか、またその選択の特徴は明らかにされていない。

そこで本研究では、保育者が子どもの発達を考慮して絵本を選択する際の絵本とその理由について検討し、保育者の絵本選択における特徴を明らかにすることを目的とする。

II. 方法

1. 調査対象

調査の対象者は、H県の保育所に勤務する保育者30名(全員女性;平均年齢33.2歳;平均保育経験年数9.97年)、保育者養成と関わりのないH県の大学に在籍する大学生30名(男性:13名,女性:17名;平均年齢20.2歳)であった。

調査は調査者と対象者が机を介して一対一で対面して座り、調査者の提示した条件に適していると思う絵本を対象者に選択してもらった後、選択した理由の聞き取りを行った。絵本は「こどものとも(福音館書店)」の年中向きに販売されている絵本から5冊を無作為に抽出した。使用した絵本は、以下の5冊である。なお、調査は2006年8月に行われた。

1. 「しごとをとりかえたおやじさん」

ノルウェーの昔話

山越一夫再話 山崎英介画

2. 「まめっこまめことおじいさん」

松野正子作 小西英子画

3. 「のどかとそれのおもちゃ」

らる・いしはら作

4. 「ふうばあちゃんのあかいくし」

鹿目かよこ作

5. 「てつたくんのじどうしゃ」

わたなべしげお作 ほりうちせいいち絵

2. 手続き

まず、5冊の絵本に1番から5番までの番号をつけ(①しごとをとりかえたおやじさん, ②まめっこまめことおじいさん, ③のどかとそれのおもちゃ, ④ふうばあちゃんのあかいくし, ⑤てつたくんのじどうしゃ)机に並べた。そして、調査者が対象者に「これは子どもに絵本を読み聞かせる時の絵本を選択する基準に関する調査です。まず5冊の絵本を読んで内容を把握してください。時間は15分間です」と調査内容を説明し、15分間で絵本の内容を把握してもらった。その後、「それでは、今からこちらが質問をしますので、その条件に合うと思われる絵本を選択してください。では、これから5歳の子どもが一人いると想定して読み聞かせをしていただきます」と伝えた後、『「子どもの想像力をつけること」を考えて絵本を選択してください』という質問をして絵本を選択してもらった。そして、対象者が絵本を選択した後、その理由を聞き取った。なお、調査は対象者を15名ずつの4グループに分け、グループ別に質問の順序を入れ替えてカウンターバランスをとった。調査内容は対象者の了解をとり、ICレコーダーですべて録音した。録音した内容は調査を終えた後すべて書きおこし、分析の資料として用いた。

Ⅲ. 結果

1. 絵本選択について

はじめに、質問に対して保育者が選択した絵本について調べた(図1)。その結果、保育者では、③を選択したものが23名と圧倒的に多かった。以下、⑤を選択したものが4名、②④を選択したものがそれぞれ1名ずつ、また「想像力をつけるなら絵本は使用せず素話を行う」という理由から「選択できない」という保育者も1名いた。

大学生の回答でも保育者と同様に③を選択したものが19名と比較的多くみられた(図2)。

この結果から、絵本の選択においては、保育者も保育経験のない大学生も大きな差がみられないことが明らかになった。

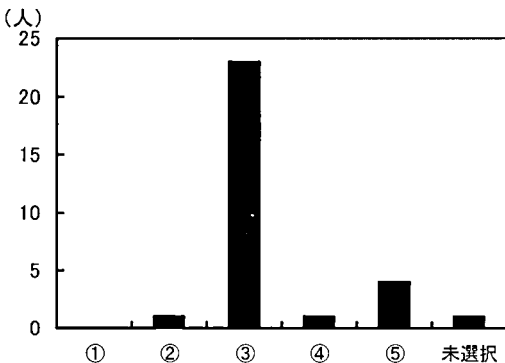


図1 保育者が幼児に想像力をつけることを意識して選択した絵本

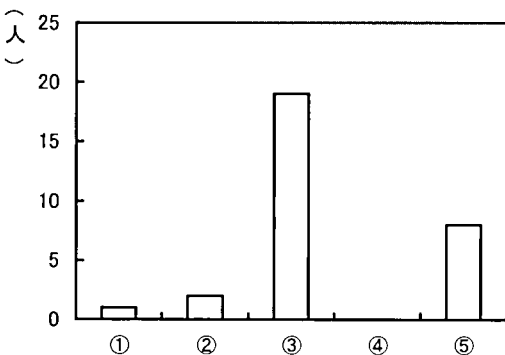


図2 大学生が幼児に想像力をつけることを意識して選択した絵本

2. 絵本選択の理由について

1) 保育者の絵本選択理由

保育者の絵本選択行動における特徴をみるた

めに、それぞれの保育者が語った絵本の選択理由を1つずつ小用紙に書き出し、KJ法による分類を行った。分類は著者2名と本研究とかかわりのない分析者2名の計4名で行った。その結果、絵本選択の理由には、①非現実、②子どもの姿、③絵本の内容、④活用効果という4つの特徴がみられた。また、4つの特徴は保育経験年数と対応した4グループに分類することができた。4つのグループの保育経験年数は①1～5年、②6～11年、③12～15年、④16～35年であった。

(1) 「非現実」グループ(保育経験1～5年・7名)

このグループでは、想像力をつけるための絵本として、「現実的ではない」「夢の世界」など想像力を空想や非現実なもの結びつけた理由を挙げるものが多かった(7名中5名)。この選択理由は、想像力ということばのもつイメージから表れたものだと考えられる。他の理由としては、「色があまりない絵本なので子どもたちがいろいろ想像できる」(保育経験4年)などというものがあつた。

(2) 「子どもの姿」グループ(保育経験6～11年・14名)

保育経験を6～11年積んできた保育者は「子どもと一緒に考えられる」「子どもが既に体験していることから想像できるから」というように、自らが経験した保育活動の中での幼児の姿から絵本選択の理由を述べる姿がみられた(14名中9名)。これは、絵本の読み聞かせ時において、ただ絵本を読み聞かせるというだけでなく、保育活動の流れの中に絵本という題材を取り入れ、幼児の活動を発展させようという思いがあることが考えられる。その他の理由としては、「現実ではない世界だから想像力が広がる」(2名)などがあつた。

(3) 「絵本の内容」グループ(保育経験12～15年・4名)

このグループに該当する4名全員が、絵や話の展開など絵本の内容に注目した回答を行った。このグループにおいては、保育経験6～11年グループの回答に多くみられた読み聞かせ時における幼児の姿を述べたものが全くみられなかった。

(4)「活用効果」グループ（保育経験16～35年・5名）

このグループの選択理由としては、「子どもが考えたりすることのお手本になる」「子どもの目線が広がる」という幼児の日常生活の中で絵本の活用方法や効果を述べた回答が多く見られた。これは、同様に幼児の姿を述べた保育経験6～11年グループよりも幅広く幼児の姿を捉えているものと思われる。また、「想像力をつけるなら絵本は使用せず素話を行う」という自身の保育実践と深く結びついた理由から、絵本は選択しないとする保育者（保育経験35年）もいた。

保育者が述べた絵本選択の理由のうち、各グループの代表的な回答を以下に記載する（表1）。

IV. 考 察

1. 選択された絵本について

想像力をつけることを意識して、絵本の選択を行った場合、理由に違いはあるものの保育者も大学生も同様の絵本を選択する傾向があることが明らかになった。多数の保育者や大学生が選択した③の絵本は、他の4つの絵本と比較して、文章数・文節数ともに最も少ないという特徴がみられた。また次に多く選択された⑤の絵本も③に次いで文章数・文字数が少なかった（表2）。後述する絵本選択理由では大学生では文字数に触れるものが少数いたが、保育者からは文字数についての発言は全くみられなかった。このことから、保育者は保育活動の中で、文字の存在をあまり意識していないことが明らかになり、保育経験の有無が、絵本の選択行動に違いを及ぼすことが分かった。

表1 保育者が述べた絵本の選択理由

	保育 経験 年数	選 択 理 由
経験年数 1～5年	1	現実的にはないので、「もしそうだったら」ということで想像力が豊かになる。
	2	空を飛ぶというのはできないことなので、絵本を見ることで自分が飛べたら、と想像できたいと思った。
	2	一番現実から離れている想像の世界だと思ったから。
	5	現実と離れた夢の世界
経験年数 6～11年	6	子どもが考えたりでき、自分も一緒に考え、一緒に楽しむことができるかなと思うから。
	7	5歳児だからイメージができると思い3番の絵本にした。年少の子なら5番を選ぶ。
	10	登場人物が大きい動きがしかなところ、それぞれ想像しながら、一人一人違った想像ができる。単調な色彩も。
	11	昼は青、夕方は赤、夜は黒、という色の変化を5歳児ならもう体験しているので、そこから想像できることがあると思う。
経験年数 12～15年	12	まず「空のおもちゃ」というのが、おもしろいと思ったから。ドンドン変化していくのが楽しい。
	13	現実にはないものが出てくるので、考えたり空想できたりする場面がある。内容でなくて絵から選んだ。
	13	展開していくので、話のふくらみがあるところが、おもしろいかなと思った。
	15	物を組み立てて作るという本なので。
経験年数 16～35年	16	空が広がっていくのが普通の生活にはなく、イメージしていく、考えたりする力のお手本
	18	「空のおもちゃって何?」と考えながら見ていくことで、子どもの目線も広がると思う。動きが単調なので子どもが想像して登場人物を動かしているのではないか。
	22	タイヤから車体という風に次々と完成していく過程を楽しみながら、子供たちの想像力が豊かになると思った。
	35	想像力だったら絵本を読まない。素話をする。絵本は誰が読んでも、絵本の持つ力で読ませることが出来る。(選ばない)

表2 絵本の概要

	頁数	文章数	文節数
①しごとをとりかえたおやじさん	32	48	376
②まめっこまめことおじいさん	28	69	572
③のどかとそらのおもちゃ	28	29	168
④ふうばあちゃんのあかいくし	32	79	300
⑤てつたくんのじどうしゃ	28	32	232

次に選択された絵本の絵に注目する。保育者、大学生に多く選択された③の絵本は、他の絵本と比べて輪郭がはっきりしている、単色で描かれている、モノトーンから次第に色彩がつく、などの特徴がみられる。また、2番目に多く選択された⑤の絵本も同様に輪郭が明確、はっきりした色使いなどの特徴があった。このことから、保育者や大学生は、はっきりした色使いや輪郭で描かれた絵本を読み聞かせることで、想像力がつくと考えていることが明らかになった。

保育者と大学生が選択した絵本には、大きな差は見られなかったが、大学生の方が若干選択にばらつきがあった。このことから「想像力」について、保育者よりも大学生の方が多用な角度から捉えられているということが出来る。「想像力」ということばは、保育指針にも記載され、保育の中で使用されることが多いが、保育者は保育経験の積み重ねによって次第に固定的な見方をしていくようになることが考えられる。

2. 絵本選択理由について

保育者の選択理由は、保育経験年数によって分類することができた。このことは、保育経験によって保育者の絵本選択行動が変化していくことを示している。保育経験1～5年グループの選択理由は、「現実的ではない」など保育経験のない大学生の選択理由と類似していた。保育経験がない大学生や保育経験の少ない保育者は、読み聞かせを行う際の絵本選択に、ことばから来るイメージで選択することが多く、絵本選択行動と幼児の姿とを結び付けることは困難であることが示された。このことは、次の保育経験6～11年グループの結果からも明らかで、保育経験を6年以上積むと、幼児の姿を想像して絵本選択が行われていると思われる。保育経験年数により保育者の分類を行う際に、一般に保育経験1～5年の保育者を新任者と捉える(藤崎・熊谷・藤永1985, 杉村・桐山1991)。本

研究の結果からも、保育者は、保育経験5年を過ぎると、保育活動の中でこれまでの自らの経験に基づいて幼児の姿を思い描き、保育の中に活かすことが出来るようになることが示唆された。保育現場においては、どこまでが新任で、どこからが中堅かということは、園によっても異なり明確ではないが、幼児の姿を思い描いて保育を行うということが、新任保育者から中堅保育者へと変化していく過程での1つの条件になると考えられる。

さらに保育経験12～15年になり保育経験を重ねると、選択理由に幼児の姿を述べるものがなくなり、絵本内容についての発言が出現した。このことから、絵本の内容を吟味し、ねらいに適した素材を選択して読み聞かせを行おうとする保育者の思いがあることが伺える。幼児の姿を思い描きながら保育を行うようになった保育者は、自分自身の保育活動の内容をより高めようとしていることが考えられる。

保育経験16～35年の保育者は、質問に対して、絵本の読み聞かせという活動においてのみ考えるのではなく、「考えるお手本になる」「子どもの視線が広がる」など他の場面において「こういう子どもになってほしい」と自らが望む幼児の姿を挙げた。これは、絵本の読み聞かせに限らず、日々行っている様々な保育活動が、幼児が理解することや思考することにつながっていることを経験してきたことから表れた理由であろう。また、保育経験35年の1名の保育者からの「想像力をつけるのなら絵本は使用しない」という回答は、長年の経験から起こる自分の保育方法に対する強い思いが感じられる興味深い回答であった。

横山・秋田(2001)は、絵本の読み聞かせにおいて、保育経験4年目までの初心者と保育経験11年以上の経験者の活動の捉え方の違いを明らかにした。その結果、経験者は幼児の発達や育ちを見通したより長いスパンから捉えていることを報告している。本研究の絵本選択行動の捉え方においても、経験年数を積んだ保育者ほど、幼児のその時の姿だけでなく、保育内容を高めようとする思いがみられたり、自らが願う幼児の姿を描きながら絵本選択を行うという同様の結果となった。

本研究では、絵本の捉え方という保育者の行動から、保育経験年数によって選択行動の違いがあることを明らかにした。それぞれの選択理由から、保育者は経験年数を経るごとに幼児理

解を深めていることが示唆された。しかし、保育現場において、経験年数を積んだ保育者の保育技術や子どもへの視点は確かなものとして扱われているものの、経験年数による保育上の行動にこのような違いがあることが、明確にされることは少ないと思われる。保育経験を積んだ保育者のどのような部分が新任保育者と異なっているのか、ベテラン保育者はどのように幼児理解を行い、それが保育の向上にどうつながっているのかを明らかにすることで、保育経験の長いベテラン保育者の、保育のコツや幼児への関わりの手がかりを知る機会となり、新任保育者の保育の質の向上にもつながることが考えられる。

引用文献

- 秋田喜代美・無藤隆 1996 幼児への読み聞かせに対する母親の考えと読書環境に関する行動の検討。教育心理学研究, 44, 109-120.
- 秋田喜代美 2004 子どもの発達と本。発達, 99 (25), 2-7.
- 藤崎真知代・熊谷真弓・藤永保 1985 保育者の保育経験と保育観に関する研究 I。発達研究, 1, 23-39.
- 市毛勝雄 2006 「教育的解釈学」を超えた新しい「読解力」の提案。現代教育科学, 49 (9), 9-13.
- 柏木恵子 1963 幼児における絵本の理解とその指導。児童心理, 17 (6), 89-95.
- 国立教育政策研究所 2004 『生きるための知識と技能－OECD生徒の学習到達度調査(PISA) 2003年調査国際結果報告書－』ぎょうせい
- Moerk, E. L. 1985 Picture-book reading by mothers and young children and its impact upon language development. Journal of pragmatics, 9, 547-566.
- 森谷幸子 2002 幼児の言語習得における絵本の役割。人間文化, 17, 153-160.
- 岡本夏木 1985 『ことばと発達』岩波書店 32-69.
- Robbins, C., & Ehri, L. 1994 Reading storybooks to kindergartners helps them learn new vocabulary words. Journal of Educational Psychology, 86, 54-64.
- Snow, C.E., & Goldfield, B. 1983 Turn the page please: situation-specific language acquisition. Journal of Child Language, 10, 551-569.
- 杉村伸一郎・桐山雅子 1991 子どもの特性に応じた保育指導－Personal ATI Theoryの実証的研究－。教育心理学研究, 39, 31-39.
- 内田伸子 2006 読解力の芽生えを促す幼児期の「言葉の力」。初等教育資料, 809, 78-84.
- 和田香譽 1995 保育者の絵本選択の意図に関する研究。日本保育学会第48回大会発表論文集, 550-551.
- 横山真貴子・秋田喜代美 2001 保育における読み聞かせはどのように熟達するのか(2) 経験者と初心者の比較。人間文化論叢, 4, 59-73.

付記・謝辞

本論文は、広島大学大学院の幼児教育学演習で行った調査の結果に基づいて執筆したものである。調査にご協力いただいた保育士、大学生の方々に感謝いたします。また論文の作成にあたってご指導いただいた七木田敦教授に深謝いたします。